

4 にちめ) かいごぎじゅつえんしゅうひょう てじゆんしよ かいどうれい
【4日目】介護技術演習表（手順書）解答例

いるい かいご
衣類の介護

さとうじろーさんは、自宅に帰ることを楽しみに自立を自指し、介護老人保健施設で日常生活を送っています。
 毎朝、佐藤さんはボタン式のパジャマからトレーナーに着替えます。
 佐藤さんの健康状態を確認しながら衣服の介助を行ってください。

主な支援の手順	支援の手順の留意点や要点・ポイント	行動の理由（根拠）
<p>① 利用者の健康状態の観察をする</p> <p>② これから行う介助の説明を行い、意思の確認をする</p> <p>③ 室温に配慮する。</p> <p>④ 利用者の意向や意思を尊重した介助を行う</p> <p>⑤ 利用者の姿勢の確認</p> <p>⑥ 衣類の着脱を行う</p>	<p>① 名前を呼び挨拶を行う 顔色、眠れたかなど「健康状態」の観察をする 状況に応じた確認が必要ですね。この演習は朝であることから、眠れたか？の確認は体調を想像できることになる</p> <p>② 視線を合わせて、これからトレーナーに着替えることを説明する。 ・「はい」「いいえ」で答えられるように本人の意思を確認する</p> <p>③ 寒くないか、室温を調整する。 通常室温は22度±2度と言われているが、個人差もあるので確認が必要</p> <p>④ 着替える衣服について、本人に選んでもらう 自己選択、自己決定できる関わりが大切ですね。 選んだ衣類については共感してください。 「おにあいですよ」</p> <p>⑤ 足底が床についているか、深く座れているか 安定して座っているかの確認をする。 介護者は患側に位置する</p> <p>⑥⑦ 上着を脱ぐ</p>	<p>① その日の体調に合わせた介助方法を選択するため</p> <p>② これから行うことを知り安心納得して行動を行うことにつなげるため 失語症があるため 本人の意思を確認できる方法で問う。</p> <p>③ 急激な気温の変化は、佐藤さんの身体へ負担がかかるため。</p> <p>④ 本人の意思の尊重 意欲をもつはたらきかけになる 精神的自立の支援となる</p> <p>⑤ 安全の確保のため 立位での更衣はバランスを崩すおそれがあるため座位での支援が安全である。 座位であってもバランスを崩すので患側保護の原則で麻痺側に位置しできないことのみ支援する</p> <p>患側から介助するため</p> <p>⑥⑦ 患側は動かしにくい</p>

⑦ 自立に向けた支援をおこなう

・健側の袖を脱ぎやすくするため、健側の手で患側の肩の衣類を外してもらおう

- ・健側上肢の袖を脱ぐ（脱健着患の原則）
- ・健側の手をつかい患側上肢の袖を脱ぐ

トレーナーを着る

- ・衣服は前見ごろを下に襟が膝の位置に置くよう置く
- ・健側の手で患側上肢から袖を通す
- ・健側の手で襟をもち、頭を入れる
- ・健側上肢の袖を通す

手順をしっかりと記入しましょう。

⑧ 健康状態や室温に配慮する。

⑧ 疲労度や寒さの確認を行う。

⑨ 体調や皮膚の観察を行う

⑨ 全身の皮膚の状態（発赤・発疹・皮膚の乾燥など）関節可動域（どこまで腕が上がるか）や痛みなどないか観察する

指示通り行動できるかなど理解度などの観察も必要

⑩ 着心地の確認を行う

⑩ 襟元、両肩、裾など整える

着心地やしわなどを確認し、できないところは介助する。

⑪ 健康状態の観察を行う

⑪ 口頭での確認と顔色や体調がすぐれないところはないか、観察、本人の意思、今後の意向を確認する。

肘や肩関節が衣服から抜けない、引っかかるため、脱ぐときは健側から脱ぎ

着るときは、患側から脱ぐ。

衣服にゆとりがまれる

時間はかかるが見守る

できないところは支援をおこなう。

椅子やベッドから転落の危険もあるため、介護者は患側保護を行う。

⑧ 温度差は身体への負担がかかるため。

疲労度や体調によってそのあとの支援の方法を決めるため、必ず体調確認が必要

⑨ 着脱のときは、全身の皮膚の状態や身体の全身状態の確認ができる機会であるため、介助をしながら、観察を行う。

⑩ しわは着心地の不快感だけでなく、皮膚へも影響する場合がありますので、本人に確認を行う。

できないところは介護者が行う。

⑪ 更衣が終わったあとは、状態の観察を行い、生活に支障がないかの確認を行う。

脱いだ衣類については、洗濯することなどつたえることも必要。